

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)	平成 30 年度第 1 回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事 務 局 (担 当 課)	小金井市ごみ対策課		
開 催 日 時	平成 30 年 5 月 23 日 (水)		
開 催 場 所	小金井市第二庁舎 8 階 801 会議室		
出 席 者	委 員	<出席者：10 名> 岡山会長・溝入副会長・石田委員・北澤委員・杉本委員・吉田委員・黒須委員・多田委員・林委員・岸野委員 <欠席者：5 名>	
	事 務 局	小野ごみ対策課長・石阪中間処理場担当課長・大久保・高田・信岡・高花	
傍聴者の可否	可	傍 聴 者 数	0
会 議 次 第	1 開 会 会議録の確認について 2 報 告 (1)燃やすごみ処理量の昨年度との月別比較について(平成 28 年度～平成 29 年度) (2)平成 29 年度可燃ごみ処理の支援状況について (3)小金井市清掃関連施設整備基本計画(概要版) (4)未活用資源(可燃ごみに含まれる資源化可能物)の有効利用方策の調査・研究に関する専門委員会報告書について (5)平成 30 年度一般廃棄物処理計画について 3 議 題 平成 29 年度施策の実績報告について 4 その他		
会 議 結 果	別紙審議経過のとおり		
提 出 資 料	別添のとおり		
そ の 他			

(審議過程) 主な発言等

小野ごみ対策課長	定刻になったが、所用により会長の到着が遅れているため、副会長に進行をお願いしたい。
溝入副会長	只今より平成30年度第1回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。欠席は、大江委員、清水委員である。あとの方は遅れてくるのではないかと。 では、本日の配布資料について、事務局から確認をお願いする。
高花減量推進係主任	(配布資料確認)
溝入副会長	それでは、前回の会議録について確認する。前回の会議録は事前送付されている。本日机上への配布はないが、何かご意見、修正等の申し出があればこの場でお願いしたい。 特に無いようであれば、公開手続きに入る。 次に、本日事務局より提出された資料について、報告と説明を求める。
大久保減量推進係長	(「燃やすごみの処理量の昨年度との月別の比較について(平成28年度～平成29年度)」説明)
小野ごみ対策課長	(「平成29年度可燃ごみ処理の支援状況について」説明) (「小金井市清掃関連施設整備基本計画(概要版)」説明)
大久保減量推進係長	(「未活用資源(可燃ごみに含まれる資源化可能物)の有効利用方策の調査・研究に関する専門委員会報告書」説明) (「平成30年度一般廃棄物処理計画」修正箇所の説明)
岡山会長	何か質問はあるか。
杉本委員	「燃やすごみの処理量の昨年度との月別比較」で全体量がとても減っているが。
小野ごみ対策課長	平成29年度の4月から枝木類の個別回収を始めたが、

(審議過程) 主な発言等

杉本委員	<p>その影響が大きい。申し込み制ではなくなったのと同時に、いままで可燃ごみで出していたものも枝木として出しやすくなったというところがある。実態としても、枝木が28年度と比べて503トン増えており、減量した550トン中503トンが枝木の影響といえる。</p> <p>これはすごく参考になる。こういったことを調べ上げて、その後の減量のための方策をここから見出すこともできるのではないか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>今後も同じような状況で個別回収したことによって費用の効果がある、また減量の効果があるということがあれば、そこは検討して実行していかなければならないと思うが、費用という部分と効果を検証しなければならない。</p>
林委員	<p>整備基本計画について。いままで中間処理場といわれていたものが、作業的に二枚橋のほうに行くということか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>作業的には二枚橋になるが、二枚橋では中間処理は行わず、積み替えだけを行う。</p>
林委員	<p>もうひとつ確認したい。びんとプラスチックごみの処理の仕方が、いままでと少し変わるのか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>現在びんの処理は市内民間業者に委託しているが、不測の事態に備え、びんの一部を新しい処理施設で処理する。</p> <p>プラスチックごみのほうは、現在埼玉県のほうでリサイクルできるものと資源となるものを選別し、リサイクルできないものは、同じ埼玉県にある民間処理場で資源化処理をおこなっている。しかし、浅川清流環境組合の新施設が稼動した際は、リサイクルできないプラスチックごみは、そこで焼却処理をすることが決まっている。いったん集めたごみを埼玉まで持って行って選別をして、また浅川清流組合に戻ってくるということは、作業効率も悪く、当然費用もかかってくるので、市内で選別作業を行う、ということである。</p>

(審議過程) 主な発言等

岡山会長	それでは議題3の「平成29年度施策の実績報告について」審議にはいる。事務局より説明をお願いします。
大久保減量推進係長	(「平成29年度施策の実績報告」説明)
岡山会長	何か意見はあるか。
林委員	<p>コメントにも書いたが、施策のほうの「学習機会の提供」と「広報媒体活用の充実」、この二つの項目が、目標値に関しては項目5「啓発活動の強化」に書いてあるということで、目標そのものは書くのをやめた。しかし、今回の報告書では、評価理由のところも「計画項目5参照」となっている。各項目に「学習機会の提供」をいれるのは、「その項目に関する「学習機会の提供」ということでいれておこうとなったはずである。</p> <p>例えば、目標の回数が40回であるから、その40回についてはいちいち書くのはやめようということで、項目5参照とした。ところが、こういった形で「評価理由」も全部「計画項目5参照」となってしまうと、その施策として評価していないことになる。それであれば、少なくともそれぞれの項目で「学習機会の提供」と「広報媒体活用の充実」が記載されている意味がない。それであればはじめから項目5にだけ「学習機会の提供」と「広報媒体活用の充実」を謳っておけば充分ではないかということになる。</p> <p>ぜひ次回これを検討するときには、やはり目標の立て方をもう一度議論をしたほうが良いのではないかと思う。</p> <p>項目6のように市が施策について何も評価を記載していないところがある。委員としては何も書いていないと、具体的な取組を一切考えずに、小中学校や自治会との取組について評価をしなければならないことになる。</p> <p>ぜひこれは次の審議会を設定の仕方を考え直す必要があるかな、という気がした。</p>
石田委員	私は、項目5をまず全部評価して、決めたものを各項目に点数を充てた。ただ、その項目で本当にその点数をつけていいかどうかは、全体を見て点数を見直すなどした。こ

(審議過程) 主な発言等

林委員	<p>この趣旨は、もし点数をつけるとしたら引用してこいということだから、原則引用してくる。それ以外に手がなかった。しかし、それだけでは判断が困難な場合もあり、林委員の言われるとおり、点がつけられないところが出てくる。</p> <p>だから、私はそれに関しては評価不能とした。</p>
岡山会長	<p>項目1「学習機会の提供」と「広報媒体活用の充実」は全部入っている。</p> <p>いま気づいたが、5「啓発活動の強化」の「対応する施策」の中に、④「学習機会の提供」がない。</p>
林委員	<p>他でも項目が全部網羅されていないという指摘はした。</p>
岡山会長	<p>市の自己評価としては、「学習機会の提供」と「広報媒体の活用」についてはBとAという評価なので、そういうことだったと踏まえながらの評価なのだろう。</p>
小野ごみ対策課長	<p>事業の進め方として、例えばくるかめ出張講座に行ったときに、かなり広範囲というか、いろいろなことをお伝えしているが、それは1回の出張講座の中で、である。目標値のうちの1回の中でそういうことをしており、我々がそれを評価するときに、それを切り分けすることが非常に難しく、どうしても一括して考えざるを得ない。それで今回の表現となっている。</p>
石田委員	<p>別件だが、集計点をみると全体の平均点が低くて、0.5以上、1.0近く下がった項目が結構ある。例えば1.0以上違うようであれば、その項目の取組に関しては考えたほうが良いと思う。同一人物が2回評価して、それなりの下がり方をしているということで、平均点を1点を下げるといのは結構大きい。評価が下がったのは下がったなりの理由があるということで、総括して対策を考えたほうがいいのではないかと今回集計していて思った。</p>
岡山会長	<p>PDCAのCの「評価」という意味では、確かに前年度</p>

(審議過程) 主な発言等

石田委員	<p>のものと比較するというのは、とても重要である。少し戻るが、「学習機会の提供」と「広報媒体の活用」については、ルールとしてやり方（評価に仕方）だけが共通認識されればいいのではないかと思うが、その影響はあるだろうか。</p> <p>林委員のやり方や、私のやり方など、個人でやり方が変わっていれば点数は当然変わってくる。1年前のことを覚えているかどうかはわからないが。</p>
岡山会長	<p>直感でその場でやっていくので、確かにそれで全体に下がっているのであれば、何らかの原因がありそうである。もし、来年に向けて評価の集計ルールを、特に項目5のところについては、もう少しきちんと事前に確認しておく、共有するということがひとつ。可能であれば、平成28年度との比較をすると施策の評価がより一層次の計画に向けたものになるのではないか。</p>
石田委員	<p>特に3点を切ったようなものがある。これはやはり原因を考えて、我々委員の判断が変わってしまったのか、内容的に問題点があったのかは考えたほうがよい。基本的にPDCAを回す意味は、そこにあると思う。</p>
岡山会長	<p>これをまた新しくするのは少し難しい。例えば急に平均点が下がったものはどれか。</p>
石田委員	<p>例えば、計画項目2の(4)「リユース活動の支援と周知」の有効性が下がっている。</p>
岡山会長	<p>リユース活動自体は、その支援も周知もあまり徹底されていなかったと評価されたということですよ。</p>
林委員	<p>そういう意味では、石田委員が言われているように、前年比較で平均点が下がっているものの原因に着目するという話しもあるが、その点数に行き着く前の、市の自己評価そのもので、例えばCがある項目はやはり翌年はなんとかしなければならぬのではという観点で議論をしっかりとや</p>

(審議過程) 主な発言等

	<p>って改善を図っていこうという提案をしていたはずである。今回もCが残っているが、職員の自己評価そのものでCが続いているものとか、前年度と比べて落ちているものをどうするかと、石田委員が言われたように前年度の委員の評価の平均点で違いが見られるものとか。それから、絶対的な数字として、ごみ相談員は前年も今回も点数が低くて、何とかしなければと思っているが、何も手が打てていない。</p>
岡山会長	<p>「地域ネットワークの構築」は、C評価である。</p>
林委員	<p>職員の認識としても低い評価で、委員、しかもそれが何年も続いているにも関わらず改善していないというのは、やはり手を打っていかねばならないと思う。</p>
小野ごみ対策課長	<p>C評価の改善も確かにやっていかねばならないが、平成26年度に策定した基本計画の見直しをしなければならぬ年が平成31年度である。平成31年度中に見直しをして、平成32年度からの5年間の計画というところで、抜本的な見直しも含めて、我々も検討しなければいけないと思っている。市としては、たとえ評価が低い施策でも、来年以降も引き続き行っていかねばならない場合もあることから、いまいただいた意見を踏まえ評価の改善を図りつつ、施策の見直しに向けても検討をしなければならぬと考えているので、よろしくお願ひしたい。</p>
岡山会長	<p>改定に向けて、コメントを活かしましょうということで。他になにかあるか。</p>
林委員	<p>項目4「資源循環システムの構築」のところで、②の「有効利用先の確保」という項目があるが、これは集めた資源物を活用する、受け取ってもらうところという意味か。</p>
小野ごみ対策課長	<p>そのとおり。例えば生ごみだったら、堆肥化する施設という意味で、資源物全体である。</p>
林委員	<p>⑨「地域の農業者 J A 市内農産物取扱者との連携」の進</p>

(審議過程) 主な発言等

小野ごみ対策課長	扱がCになっているが、現状がわからないので、簡単に説明していただきたい。
林委員	農家の方との連携というのは、堆肥を使っていたいている農家の方とも、それ以外の方とも、いろいろな意見交換をさせていただいているが、JAさんとの連携がまだ進んでいないのでCとしている。
小野ごみ対策課長	以前、農家で、例えば生ごみ堆肥は重金属などが問題で使えないという話があったが。
杉本委員	今年から下水道汚泥が入っていない農家向けの堆肥も作っており、それについてはお知らせしている。少しずつではあるが、農家さんの利用が復活しつつある。
小野ごみ対策課長	農家用の堆肥と普通の堆肥では値段が違うのか。
林委員	農家用のほうが高い。下水道汚泥を入れないと、発酵速度が遅くなる。下水道汚泥が入っているものは3か月でできるが、入れないものだと6か月かかる。そうすると、その間、堆肥工場の方の手間もかかるため、その分が金額的には高くなる。
小野ごみ対策課長	リユースのところで、評価理由に「題材となる分野が枯渇しつつあるため調査・研究を行ったものの、品目の拡大はできなかった」とあるが、この有効利用先の確保というのは何のことを指すのか。
林委員	リユースは、基本的にそのまま使っていただくものであるが、例えば布団はカビが生えているなどの問題が無ければリユース先もあるということだったが、品質を市が確保したうえで持っていくというところが難しい。そういうようなところがあって、リユース先である有効利用先の拡大にまで至っていない状況である。
小野ごみ対策課長	なるほど。では、この評価理由で書かれている「題材と

(審議過程) 主な発言等

高田清掃係長	<p>なる分野が枯渇」の部分の「題材」というのは受け取り先の拡大ではなく、集める収集物の拡大ができなかったということか。</p> <p>例えば、くつ・かばんのように、集める物でリユースできる対象品を見つけることが難題であるということ。見つかったとしても、それをさらに引き取ってくれる業者がないということ。この2点が問題となるので、そういう意味で書かせていただいた。</p>
林委員	<p>そうすると、具体的な取組みは引き取り先の話をしているが、評価理由のところでは集める品目の話をしていると。</p>
小野ごみ対策課長	<p>両方合致しなければ、これに当てはまらないということである。</p>
林委員	<p>石田委員の話しと考え合わせると、Cのままのもの、点数が落ちたもの、絶対的な数字が低いものについて、整理して進めることはできないか。そういうことをしないと、また同じものを作っても同じようなことになるのではないか。</p> <p>あれもこれもやる必要はないと思う。このままでは、例えばC評価がずっとそのままC評価になってしまいますような気がする。市のほうでも、委員やごみゼロ化推進会議などからのボトムアップではなく、市からこれを検討してくれというふうに審議会やごみゼロ化推進会議に提示したら良いのではないか。</p>
小野ごみ対策課長	<p>諮問をさせていただくときのお願いの仕方もいろいろあると考えている。今は我々のほうで計画案を作って、それに対して審議していただくという形になっているが、その計画案の中には、評価がCになったとしても、政策上、載せざるを得ないものも載せたうえで案をお出ししている。ただ、その説明の中で、どこが去年のC評価だという説明はしていないので、こういった形で諮問させていただくか研究させていただきたい。</p>

(審議過程) 主な発言等

岸野委員	くつ・かばんの回収は月に1回だが、家が遠いことで足の踏む人もいる。検討課題として、そういったことを工夫すれば、評価が上がるものもあると思う。
小野ごみ対策課長	平成30年度の施策の中では、くつ・かばん類を含む分別区分及び回収方法の見直しも含めて検討すると記載してある。実際に、くつ・かばんは月1回、市の中心にあるリサイクル事業所の前で拠点回収をしているが、庁舎の建設が始まっていくと使えなくなる。そうすると、次の回収場所をどこにするかを市としては検討しなければならない。回収曜日を変えるとか、そういったことも含めて検討している。
岡山会長	くつ・かばんもそうだが、リユースで古着などもある。私も売りに行ったこともあるが、若い人は、そういった企業を利用したりしているのではないだろうか。市が関与していないので、どのくらいかは不明だが、そういった企業もとても貢献してくれているのではないかと思う。 他にはいかがか。石田委員が確認した中で、評価が1.0点以上上がったものはどれか。
石田委員	全体で下がっている傾向がる。何らかで厳しい見方をする人が、相対的に増えているということが言えると思う。
林委員	4資源循環システムの構築の中の、家庭用生ごみ処理機の購入費補助の評価理由に事業者のことが記載されているが、事業者に対して家庭用生ごみ処理機の補助を行ったということか。
小野ごみ対策課長	家庭用生ごみ処理機購入費補助の中に事業者に対するものも入っている。補助金額は全く異なるが、市として実施しており、実績があったものの事業用としての項目がなかったため、ここに書かせていただいた。
岸野委員	マイバックやマイボトルは浸透してきたが、マイはしはゼロに近い。項目を別にしたほうがいいのではないか。

(審議過程) 主な発言等

北澤委員	マイはしを作ったことがあるが、そうすると愛着が出て使いたくなる。そうすると、持ち歩こうという気持ちも出てくるのではないか。そういった活動も面白いかもしれない。
岸野委員	作ったこともあるが、持ち運ぶと衛生面が気になってしまう。そういうこともあってなかなか浸透しないのかもしれない。項目を分ければ、評価点数も上がるかもしれない。
岡山会長	ここは啓発というよりも、レジ袋や割り箸の削減のことかもしれない。
石田委員	2-(5)の有効性が下がっている。あとは6-(2)(環境教育・環境学習の推進)の有効性も下がっている。
岡山会長	「環境学習の推進」が下がっているのは、しっかりやっていないということである。
石田委員	実態はともかく、評価だけはとても下がっている。
岡山会長	要するに、これ自体の評価が項目5に依っているから、評価不能という方がいる。
石田委員	評価不能は除いているから、平均点には直接影響していない。有効性の実態が下がったという気はしないので、評価する側の感覚が変わってしまったのだと思う。いろいろなコメントの中で、評価されるような記述があったのかもしれない。
小野ごみ対策課長	昨年も今年も皆様に評価していただいていて、項目も、ほぼ同じ項目が残っている。去年は初めて評価されたので、もしかしたら感覚的に甘い評価になっていたのかもしれないという部分もあり、今年が2年目になるので、より厳しい目で見ていただいたという部分もあると思う。 我々の感覚としては、職員の評価という部分について、

(審議過程) 主な発言等

林委員	<p>確かに昨年と今年が大きく違っているところに関しては、当然見直していかなければならないと感じる。皆様方の評価の仕方についても、もし違いがあるのであれば、ぜひ参考とさせていただきたい。</p> <p>やはり項目6の環境教育のところは、「項目5参照」しか記載されていないので、その中で評価しなければならない。項目5参照だから項目5に戻っても、学校や自治会に対しての市としての動きが読み取れない。なおかつ、項目5啓発活動のところでは、④が抜けている。そうすると、評価ができない。だから、皆さんこのページだけを見て「知っている範囲ではやっている」とか「聞いたことがない」とか、そういったことで点数をつけているだけである。</p> <p>例えば、小中学校への出前事業を実施して子どもに教育を行っている、小金井市の小学生はごみに関しては誇れるくらいの教育を受けていると課長が言われていると聞いている。そういう話は我々に入っていない。そうすると、「小学校いつているのか」「そういえば回数が記載されていた」という感じで評価する。もう少しそういった情報を評価シートに出していただくと、委員の評価も上がってくるのではないかと思う。</p>
石田委員	<p>私は今のことを昨年確認した。40回と書いているが、計算すると40回は不可能なはずだと。そうしたら、各学校に行き、何度も実施している。その数は、確かに40回に達している。今年は実施回数が35回くらいだったようで、職員の評価は低くなっているが、35回でも充分実施していると思う。だから評価は高くつけたが、今のようないことが伝わっていないとすると、0点という方が出てくる可能性はある。</p>
小野ごみ対策課長	<p>我々は、行った部分についての情報を皆様方にもっと丁寧に説明しなければならないということがわかった。</p>
岡山会長	<p>項目5「啓発活動」のところ、切り分けは難しいとのことであったが、そういうことであれば、この項目は町</p>

(審議過程) 主な発言等

	<p>会・自治会・子供会であるが、客観的にコメントを書けば、積極的に評価できそうな気がする。多少書き込むだけでもいいかもしれない。</p>
溝入副会長	<p>もともと切り分けられないものを無理に切り分けて、なおかつ押さえないければならないものと重なっているものをどうにかしても意味は出てこない。これを見ていると、メリハリが無さ過ぎるうえに、重点が多すぎる。点数を出す意味があるのかと思う。</p>
杉本委員	<p>私も初めはそう思っていたが、枝木などをみるといい結果をだしている。それをみると、いい加減に点数をつけているようで、正しいデータは出てきているんだと感じる。</p>
溝入委員	<p>だからこそ、逆に重点というのは、本当に市の施策としての重点で、それについてどう判断できるかどうか、メリハリをきちんとつけてほしい。</p>
林委員	<p>そのために、今までの流れから項目が多くなったのは仕方ない。年毎に、今年度はここに特化してこれをやるという重点を絞り込んで、具体的にその進捗を翌年評価に積み上げていくということが必要ではないかと思う。そのためには、職員が重点を絞り込んで、さらに審議会で来年度の重点項目を絞り込む。もちろん市民にそこだけをお願いするということではないが、これを推進するにはここに力を入れましょう、ということが必要なのでは。</p>
杉本委員	<p>どれを重点項目に取り上げるかというのは難しいのではないか。</p>
林委員	<p>市としては、例え評価が低くても幅広く抑えておかなければならないということは理解できる。施策を前進させるためには、力を入れる項目を絞り込んで、それを共通認識として職員の中でもっと評価をしていくというのがよいのではないかと思う。</p>

(審議過程) 主な発言等

岡山会長	この評価方法になる前はかなり検討したが、反省点は次に活かすようにする。
杉本委員	枝木の評価がとても高い。市は「重点として実施するかどうかを選ぶ」という点で、枝木がこれほどの効果を出すとわかっていたのか。
小野ごみ対策課長	わかるものとわからないものがある。今回の枝木については、最終処理をしていただく業者が1社だったが、そこで集めて保管していただいた枝木を活用していただけたところが見つかった。そこに働きかけをした結果、個別収集ができることになって、今回その効果が現れた。最終的に資源物も含め、資源循環やリサイクルに繋がってくるのかどうかを検証したうえでの施策になる。そのため、効果があるのではないかと感じて、受け入れ先が見つからない限りは、そこまで至らないということもある。
岡山会長	リサイクルするところがないと難しい。そういったこともあり、新たに廃食油を提案した。
林委員	廃食油が具体的に動き出すのは、まだ先になるのか。
小野ごみ対策課長	今年度中に方針を決めて、来年度の予算編成に間に合えば、必要なものとして予算化していく方向で考えている。 量だけでなく、管理ができるかどうかも重要になる。我々は「廃食油」として検討しているが、種類を問わず油を持参された場合、管理する人員がいなければ当然事故にも繋がるため、そういったことも含めて我々は研究しなければならないと考えている。
杉本委員	先ほど言われたように、前年度との比較ということで評価をしていくということだと、新しい評価方法でやるのか。
岡山会長	いま現計画のなかでこの評価を行っている。次の新計画の更新をするときに、評価方法を変えればよいのではないか。

(審議過程) 主な発言等

石田委員	<p>評価方法を変更するのであれば、31年度の見直しのと きに合わせてやらないと、継続性も無駄になってしま す。表だけ変えてももっと難しいということもある。その 時点で、例えば項目を現状の項目から2・3あるいは1つ に絞って最重点を決めるということをして良いのではな いか。ともかく途中では変えられないと思うので、31年 度長期計画見直しの際に検討したほうがよいと思う。</p>
岡山会長	<p>他にご意見が無いようなので、審議はここまでとしたい。 これをもって、今任期の審議を終了する。</p>